

令和5年度一般会計当初予算説明資料

6款 農林水産業費
2項 畜産業費
3目 家畜保健衛生費

畜産課（内線：7287）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新) 鳥インフルエンザ等家畜防疫施設整備事業	101,502	0	101,502	21,460			80,042	
トータルコスト	107,740千円（前年度 0千円）〔正職員：0.8人〕							
主な業務内容	特定家畜伝染病の発生予防、発生時の初動準備及び家畜処分と補償対応							
工程表の政策内容	安心安全な畜産物の生産に必要な衛生管理体制の整備							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

令和4年12月に本県で初めて特定家畜伝染病である高病原性鳥インフルエンザが発生した。ひとたび発生すると地域の養鶏業に多大な影響を与える疾病であるため、発生・まん延防止対策の一層の徹底が急務になっている。高病原性鳥インフルエンザ、豚熱、アフリカ豚熱等の家畜伝染病の発生予防を進めるとともに、万が一発生した場合に迅速に対応するために必要な対策を行う。

2 主な事業内容

(1) 防疫措置強化のための施設整備

(単位：千円)

区分	内容	予算額
鳥取家畜保健衛生所整備事業	老朽化した鳥取家畜保健衛生所の検査施設を新設し、機能向上を図るとともに、発生時に使用する動力噴霧器、防護服やマスク等を備蓄するスペースを整備する。 〔R5年度〕建築設計、地質調査（単県） 〔R6年度〕建築（消費・安全対策交付金1/2）	12,349
備蓄倉庫改修等事業	発生時に迅速に少人数で物資を運び出せるよう、動力フォークリフトを整備するとともに、備蓄倉庫として使用している旧八橋警察署を改修する。 改修：消費・安全対策交付金1/2	51,553

(2) 県内鶏生産者・団体への支援

(単位：千円)

区分	内容	補助率	予算額
畜舎前室等整備支援	鶏舎前室や監視舎等（飼養衛生管理基準に定められた衣服の着替えや長靴交換、健康観察の記録等を行う棟又は部屋）の整備の支援、車両消毒エリアや場内の環境整備	県1/2 市町村1/6（任意）	37,600

3 事業目標・取組状況・改善点

(1) 事業目標

農場における衛生対策を強化することにより、特定家畜伝染病の県内侵入を防止する。万が一発生した場合は、速やかに防疫措置を実施する。

(2) 取組状況・改善点

- 令和4年12月に本県で初めて高病原性鳥インフルエンザが発生し、防疫措置を行ったところであるが、全国的に今シーズンは過去最悪の発生数となるなど、引き続き防疫対策の強化が必要となっている。
- 今回の本県の防疫措置を振り返り、防疫資材の備蓄強化や、対応マニュアルの改正等を今後行っていく。

令和5年度一般会計当初予算説明資料

6款 農林水産業費
2項 畜産業費
3目 家畜保健衛生費

畜産課（内線：7287）
→事業実施：家畜防疫課
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
特定家畜伝染病危機管理対策事業	132,509	131,818	691	59,040		＜手数料＞ 8,444	65,025	
トータルコスト	152,781千円（前年度 152,322千円）〔正職員：2.6人〕							
主な業務内容	特定家畜伝染病の発生予防、発生時の初動準備及び家畜処分と補償対応							
工程表の政策内容	安心安全な畜産物の生産に必要な衛生管理体制の整備							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

豚熱、アフリカ豚熱、高病原性鳥インフルエンザ、口蹄疫等の特定家畜伝染病が万が一発生した場合の損失補償、県による処分家畜等の焼却経費などを措置するとともに、発生に備えた防疫演習、飼育豚への豚熱ワクチン接種、野生いのししの豚熱検査等を実施し、特定家畜伝染病に対する危機管理体制を構築する。

2 主な事業内容

（単位：千円）

事業名	事業内容	財源	予算額	
防疫対応力向上事業	(1)防疫演習、庁内連絡会議の実施	家畜伝染病発生に備えた防疫演習の実施に必要な資材等の購入、発生に備えた庁内体制を整備するための連絡会議の開催	国1/2 単県	403
	(2)野生いのししの豚熱・アフリカ豚熱のサーベイランス検査	豚熱及びアフリカ豚熱の県内侵入監視を目的とした野生いのししのサーベイランス検査を強化するため、（一社）鳥取県猟友会に採材を委託し、遺伝子検査及び抗体検査を実施	国定額 国1/2	4,898
	(3)防疫備蓄資材等の購入	家畜伝染病発生時の詳細検査や初動防圧に必要な物品の備蓄（国庫対象外の物品）	単県	1,090
	(4)靴底消毒委託、炭酸ガス保管委託	国際港湾、空港における乗客の靴底消毒の委託、家畜伝染病発生時に必要な液化炭酸ガスの保管委託	単県	5,525
豚熱対策	(5)豚熱ワクチン接種	ワクチン購入費、免疫付与状況調査経費	国1/2	21,885
	(6)豚熱侵入防止対策	国の消費・安全対策交付金を利用して離乳豚舎前室整備及び車両消毒エリアの舗装整備を支援	国定額	2,300
(7)特定家畜伝染病セーフティネット事業	家畜伝染病発生に伴う移動制限による家畜及び生産物の損失を補償	国1/2	47,216	
(8)迅速防疫体制整備	発生予防のための消毒の実施や家畜伝染病発生農家の処分家畜の焼却を県が実施するための経費	国1/2	48,392	
標準事務費		単県	800	
合計			132,509	

3 事業目標・取組状況・改善点

(1) 事業目標

特定家畜伝染病の県内侵入を予防し、万が一発生した場合は、速やかに防疫措置を実施する。

(2) 取組状況・改善点

- 令和4年12月に県内家きん農場で初めて発生した高病原性鳥インフルエンザに対応するため、自衛隊、市町村、JAグループ等の協力を得て、殺処分、処分鶏の焼却、農場消毒、消毒ポイントでの車両消毒等を速やかに実施した。
- 全国的に発生が続いている豚熱の発生を防ぐ為に、飼育豚への豚熱ワクチン接種の推進、また、野生いのししに対し経口ワクチンを散布した。

令和5年度一般会計当初予算説明資料

6款 農林水産業費
2項 畜産業費
3目 家畜保健衛生費

畜産課（内線：7287）
→事業実施：家畜防疫課
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
家畜衛生総合対策事業	44,975	37,016	7,959	25,130		＜手数料＞ 111	19,734	
トータルコスト	274,417千円（前年度 268,851千円） [正職員：28.1人、会計年度任用職員：3.6人]							
主な業務内容	総合調整事務 事業事務							
工程表の政策内容	安心安全な畜産物の生産に必要な衛生管理体制の整備							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

家畜伝染病予防法に基づき、法定伝染病、届出伝染病等を対象として、伝染性疾病の発生予察、発生予防のための各種検査や浸潤状況調査等を実施し、これらの疾病の早期発見・まん延防止を図る。
安全安心な畜産物の生産に必要な衛生管理体制の整備を行うため、畜産農家等に対する改善指導、家畜衛生情報の提供、技術支援、動物用医薬品の適正使用について指導等を行う。

2 主な事業内容

細事業名	内容	財源	予算額
家畜伝染病予防事業	・家畜伝染病の発生予察検査 ・家畜病性鑑定の実施、農家指導	国1/2 国10/10	19,316
家畜衛生対策事業	・BSE検査体制強化の推進 ・家畜衛生関連情報整備対策 ・動物用医薬品危機管理対策 ・地域衛生管理対策 ・関連機器（備品）の整備 ・外部精度管理調査の受検 ・農場バイオセキュリティ対策向上	国1/2	21,523
家畜防疫事業基金	他の牛への感染源となる牛ウイルス性下痢(BVD)持続感染牛を自主淘汰した場合に補償額の一部を助成する。 ・基金管理団体：（公社）鳥取県畜産推進機構 ・基金造成割合：県1/3、農協1/3、生産者1/3 ・補助率：定額	単県	1,305
自衛防疫強化総合対策事業	家畜の伝染性疾病の発生予防のため、自衛防疫組織が中心となって実施するワクチン接種事業を支援する。 ・事業実施主体：（公社）鳥取県畜産推進機構 ・補助率：定額、1/2	単県	2,831
合計			44,975

3 事業目標・取組状況・改善点

(1) 事業目標

家畜疾病の発生数を低減する。

(2) 取組状況・改善点

- ・家畜伝染病予防法に基づく家畜疾病の監視検査（通年）、家畜疾病診断と予防指導による疾病のまん延防止及び清浄化に取り組んでいる。
- ・動物用医薬品について立入及び収去検査による法令遵守指導及び啓発を行っている。
- ・地域で課題となっている疾病の監視検査を通じた発生予防体制を推進する。

＜家畜疾病の発生率＞

年度	発生率比較
令和元年度	全国5.0%、鳥取県5.0%
令和2年度	全国4.9%、鳥取県5.7%
令和3年度	全国5.2%、鳥取県7.3%

令和5年度一般会計当初予算説明資料

6 款 農林水産業費
2 項 畜産業費
2 目 畜産振興費

畜産課（内線：7288）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新) 畜産経営緊急救済事業	228,968	0	228,968	228,968				
トータルコスト	244,562千円（前年度 0千円）〔正職員：2人〕							
主な業務内容	補助金交付事務、事業実施主体との協議・調査・指導							
工程表の政策内容	子牛生産頭数・肉牛出荷頭数の増加と「鳥取和牛」の高価格販売によるブランド力アップ（令和5年度：子牛生産頭数4,000頭、肉牛出荷頭数5,000頭、和子牛平均価格全国3位以内）							

事業内容の説明 【「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」充当事業】

1 事業の目的、概要

ウクライナ情勢や円安等により飼料価格が高騰し、県内畜産農家の経営を圧迫していることから、令和4年5月及び9月補正予算で対応してきたが、配合飼料価格は高止まりが続いている。このままでは国の配合飼料価格安定制度による補填金が交付されず生産者の実負担額の大幅な増加が見込まれることから、引き続き緊急支援を行う。

2 主な事業内容

(単位：千円)

対象者	令和5年度支援内容	補助率	事業実施主体	事業対象期間	予算額
酪農家	令和3年度の1頭あたりの飼料価格を基準として、基準価格を超えた飼料代の1/4を支援	1/4以内	大山乳業農業協同組合	令和5年4月～同年9月	170,794
養鶏農家	飼料価格の高騰により令和4年に損失が発生した農家について、配合飼料価格安定制度で補てんされる上限を超える農家負担の一部を支援	1/3以内	鳥取県養鶏協会等	令和5年4月～同年9月	47,250
肉牛、養豚農家	牛及び豚マルキン※で補てんされる上限を超える部分の一部を支援	1/2以内	(公社)鳥取県畜産推進機構	令和5年4月～同年9月	7,924
経営改善支援	飼料高騰等により資金繰りが悪化した農家に対する経営改善のための専門的経営コンサルタントによる指導費の一部を支援	1/3以内	県内JA等	令和4年4月～令和6年3月	3,000
計					228,968

※牛及び豚マルキン制度：販売価格が生産費を下回った場合に、補てん金を交付する制度（差額の9割補填）

3 事業目標・取組状況・改善点

(1) 事業目標

県内畜産農家の経営維持を図る。

(2) 取組状況・改善点

- 配合飼料だけでなく輸入牧草も含めて飼料価格が高騰したことから、国の配合飼料価格安定制度による補填金の支援に加えて、県独自に令和4年5月及び9月補正予算で支援を実施することで、畜産農家の廃業は回避できた。
- このまま飼料価格が高止まりが続けば国の補填金が出なくなることから、畜産農家は更に非常に厳しい状況となる。
- 取引価格への価格転嫁は徐々に進んでいるが、急激な飼料価格の上昇分をカバーするほどの価格転嫁は難しい状況であるため、飼料高騰について継続して支援を行う。

令和5年度一般会計当初予算説明資料

6 款 農林水産業費
 2 項 畜産業費
 2 目 畜産振興費

畜産課（内線：7288）
 （単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新) 肥料国産化に向けた施設整備事業	10,000	0	10,000				10,000	
トータルコスト	10,780千円（前年度 0千円） [正職員：0.1人]							
主な業務内容	補助金事務							
工程表の政策内容	—							
事業内容の説明								
1 事業の目的、概要								
家畜排せつ物や食料残渣などから高品質な堆肥を製造し、環境への負荷の少ない持続的な農畜産業の発展を図るため、老朽化した堆肥施設を再整備する。								
2 主な事業内容								
	区分	内容	実施主体	事業費	県補助率	予算額		
	土地造成支援	肥料製造施設整備及び改修に係る国庫補助対象外となる土地造成費への補助	JA等	940,000千円 (内、造成費30,000千円)	1/3	10,000千円		
3 事業目標・取組状況・改善点								
(1) 事業目標 家畜排せつ物など地域資源を活用した肥料生産体制の構築。								
(2) 取組状況・改善点 <ul style="list-style-type: none"> ・家畜排せつ物の適正処理のため、共同堆肥施設が整備されているが、耐用年数を過ぎて老朽化が問題となっている。 ・一方で、肥料の安定確保のため、家畜排せつ物や野菜残渣、石炭灰など地域資源の有効活用の動きが高まっている。 ・このため、国事業を活用して共同堆肥施設の整備や改修を行い、家畜排せつ物の安定処理と化学肥料を混ぜた混合堆肥複合肥料のペレット化等による安定供給を図る。 								

令和5年度一般会計当初予算説明資料

6 款 農林水産業費
2 項 畜産業費
2 目 畜産振興費

畜産課（内線：7291）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
生乳増産対策支援事業	18,985	12,116	6,869				18,985	
トータルコスト	34,579千円（前年度 27,888千円）〔正職員：2人〕							
主な業務内容	補助金事務 事業実施主体との連絡調整、事業進行管理 国等との調整 調査							
工程表の政策内容	安定した生乳生産量を確保し、鳥取県産牛乳を原料とする製品の国内販売の増や輸出等によりブランド化を進める。							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

高品質な「白バラ牛乳」の増産やアイスクリーム等の乳製品の輸出量を大幅に増加させるために県内生乳生産量6万トン以上を確保することを目的に、県内乳用牛全頭のゲノム育種価検査を進めるとともに、生乳生産性向上や省力化に取り組む酪農家の施設・機械整備等を支援する。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	事業内容	補助率等	予算額
ゲノム育種価改良対策支援事業	有望な乳用牛の早期判定のため、育成牛全頭を対象としたゲノム育種価検査費用に対して補助する。	県1/3、大山乳業1/3 補助対象：乳用牛のゲノム育種価検査費用 事業実施期間：令和2年度～令和5年度	6,667
担い手施設整備対策事業	生乳生産性向上に取り組む酪農家の施設・機械整備等の中で、国のクラスター事業の要件を満たしていない取組に対して補助する。	県1/3、市町村1/6 補助対象：生乳生産性向上や省エネ・省力化・暑熱対策に資する施設・機械整備等 ※事業費上限：500万円	1,666
【燃油高騰対策】 （新）乳業工場省エネ推進事業	乳業工場の省エネ推進のため、太陽光発電システムの導入について支援する。	県1/5 補助対象：太陽光発電の機器、設備の購入経費、据付工事費	10,652
合 計			18,985

3 事業目標・取組状況・改善点

(1) 事業目標

- ・県内生乳生産量6万トン以上を維持する。

(2) 取組状況・改善点

- ・担い手施設整備対策事業により、平成26年度から令和4年度までに29戸の農家が牛舎増改築や機械導入等を実施した。
- ・令和2年度から始めたゲノム育種価改良対策支援事業では2か年で1,000頭以上の育成牛を検査し、乳牛の改良に貢献した。
- ・平成29年度まで減少傾向であった生乳生産量が平成30年度は増加に転じており、令和2年には県が目標とする年間生乳生産量6万トンを達成し、令和3年、令和4年も維持している。

令和5年度一般会計当初予算説明資料

6 款 農林水産業費
2 項 畜産業費
2 目 畜産振興費

畜産課（内線：7829）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新) 鳥取和牛肉質日本一奪還に向けた総合戦略事業	6,577	0	6,577			<基金繰入金> 6,577		
トータルコスト	13,594千円（前年度 0千円） [正職員：0.9人]							
主な業務内容	補助金交付事務、事業実施主体との協議・調査・指導							
工程表の政策内容	子牛生産頭数・肉牛出荷頭数の増加と「鳥取和牛」の高価格販売によるブランド力アップ（令和5年度：子牛生産頭数4,000頭、肉牛出荷頭数5,000頭、和子牛平均価格全国3位以内）							
事業内容の説明								
1 事業の目的、概要								
令和9年に北海道で開催される第13回全共で鳥取県が確実に勝利するため、全共候補牛の作出技術、選抜技術、仕上げ技術を向上させるために必要な経費について助成する。								
2 主な事業内容								
（単位：千円）								
内容							予算額	
(1) 技術者レベルアップ事業 種牛区で常勝軍団である鹿児島県及び宮崎県の技術員から全共出品にかかる技術を学び鳥取県独自の技術を構築する。							1,805	
(2) 採卵協力費 優秀な雌牛から採卵を行う際の協力費（生産補償と採卵経費）							3,601	
(3) 県共進会報償費 県共進会においてグランドチャンピオンを取った牛を出品した地域への報償費							500	
(4) 高等登録牛倍増計画事業 高等登録の受審料を助成することで県内の高等登録牛を倍増させ、第5区（高等登録群）の全共候補牛の数を増やす。							100	
(5) 地域出品対策協議会活動費 地域出品対策協議会の活動費への助成（3協議会）							331	
(6) 生産振興大会 肉用牛振興大会開催経費の助成							74	
(7) 事務局経費 推進委員会、出品対策部会、巡回経費の助成、県共進会新賞グッズ等							166	
合計							6,577	
<ul style="list-style-type: none"> ・負担割合 県1/2以内 ・事業実施主体：第13回全国和牛能力共進会鳥取県推進委員会（事務局：公益社団法人鳥取県畜産推進機構） 								
3 事業目標・取組状況・改善点								
(1) 事業目標 第13回北海道全共で肉質日本一を奪還し、鳥取和牛のブランド力を高める。								
(2) 取組状況・改善点								
<ul style="list-style-type: none"> ・第12回鹿児島全共では、種牛区の3出品区で前回は上回る成績となるなど一定の成果を残したものの、肉牛区で目標の肉質日本一を獲得できなかった。令和4年10月27日に第13回北海道全共に向けた戦略会議を開催するなど協議を進めた結果、候補牛を生産するための受精卵技術、選畜の技術、育成指導技術などの技術力の強化が必要となった。 ・第13回北海道全共で肉質日本一を奪還し、鳥取の和牛ブランドをさらに強固に進めるとともに、鳥取和牛の技術力を全国にアピールし、「和牛といえば鳥取」と認知されるよう取り組んでいく。 								

令和5年度一般会計当初予算説明資料

6 款 農林水産業費
 2 項 畜産業費
 2 目 畜産振興費

畜産課（内線：7291）
 （単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考											
				国庫支出金	起債	その他	一般財源												
(新) 鳥取地どり増羽対策人材育成等事業	1,230	0	1,230				1,230												
トータルコスト	2,010千円（前年度 0千円） [正職員：0.1人]																		
主な業務内容	補助金事務																		
工程表の政策内容	・「鳥取和牛オレイン55」「鳥取地どりピヨ」「大山ルビー」など、美味しい鳥取ブランドの形成 ・付加価値の高い県産品ブランドの増産体制の構築																		
事業内容の説明																			
1 事業の目的、概要 鳥取地どりの生産拡大に向け、ひな供給施設整備の検討及び人材育成に係る経費を支援する。																			
2 主な事業内容 事業実施主体：県内地どり生産者 事業期間：令和5年度～令和8年度																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>事業内容</th> <th>補助率</th> <th>予算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ひな生産施設整備の検討</td> <td>県外種鶏場、ふ卵場等の視察経費を支援する。</td> <td rowspan="2">県1/3 市1/6</td> <td>30千円</td> </tr> <tr> <td>増羽に向けた人材育成</td> <td>飼養管理を行う技術者育成に必要な経費を支援する。</td> <td>1,200千円</td> </tr> </tbody> </table>									区分	事業内容	補助率	予算額	ひな生産施設整備の検討	県外種鶏場、ふ卵場等の視察経費を支援する。	県1/3 市1/6	30千円	増羽に向けた人材育成	飼養管理を行う技術者育成に必要な経費を支援する。	1,200千円
区分	事業内容	補助率	予算額																
ひな生産施設整備の検討	県外種鶏場、ふ卵場等の視察経費を支援する。	県1/3 市1/6	30千円																
増羽に向けた人材育成	飼養管理を行う技術者育成に必要な経費を支援する。		1,200千円																
3 事業目標・取組状況・改善点 (1) 事業目標 鳥取地どりの生産数2万羽/年を目指す。 (2) 取組状況・改善点 ・鳥取地どりは関西を中心に人気があり引き合いも強いが、令和3年度の生産数は12千羽と供給量が限定されており、需要に応えきれていない。 ・生産者の増羽意欲は高いことから、増羽に向けたひな供給体制の検討や飼養管理技術者の確保に向けて計画的に取り組む。																			

令和5年度一般会計当初予算説明資料

6款 農林水産業費
2項 畜産業費
2目 畜産振興費

畜産課（内線：7285）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新)第16回 全日本ホルスタイン共進会 対策事業	1,061	0	1,061				1,061	
トータルコスト	1,841千円（前年度 0千円） [正職員：0.1人]							
主な業務内容	補助金事務							
工程表の政策内容	安定した生乳生産量を確保し、鳥取県産牛乳を原料とする製品の国内販売の増や輸出等によりブランド化を進める。							
事業内容の説明								
1 事業の目的、概要								
鳥取県の乳牛改良を大幅に促進し、白バラブランドの更なるイメージアップを図るため、令和7年度に北海道で開催される第16回全日本ホルスタイン共進会（以下、ホル全共という。）での上位入賞を目指す。								
2 主な事業内容								
（単位：千円）								
区分	事業内容	実施主体	事業費	予算額	補助率			
ホルスタイン全 共総合対策事業	・輸入受精卵雌牛からの受精卵 採取及び移植 ・県外共進会への出品補助 ・出品者研修費用	全日本ホルスタイン共進会 対策委員会 （事務局：大山乳業）	2,122	1,061	県1/2			
3 事業目標・取組状況・改善点								
(1) 事業目標 全日本ホルスタイン共進会での上位入賞を果たす。								
(2) 取組状況・改善点 ・従来の本県のホル全共に対する取組は、開催前年に候補牛を選抜し、県の共進会で出品牛を決定するという方法であり、改良方針や交配による牛づくりは農家任せとしていたが、令和2年第15回宮崎大会に向けては、平成28年9月補正で輸入受精卵を導入し、大会に向けて全共候補牛の改良に計画的に取り組んだ。 ・第15回大会は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、事業で導入した輸入受精卵から生まれた雌牛及びその娘牛から受精卵を採取し、令和7年第16回大会においても活用する。								

令和5年度一般会計当初予算説明資料

6款 農林水産業費
2項 畜産業費
2目 畜産振興費

畜産課（内線：7290）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
鳥取県和牛増頭改良推進事業	69,584	158,204	△88,620			<基金繰入金> 69,584		
トータルコスト	83,619千円（前年度 172,399千円）〔正職員：1.8人〕							
主な業務内容	補助金事務 事業実施主体との協議 調査・指導							
工程表の政策内容	子牛生産頭数・肉牛出荷頭数の増加と「鳥取和牛」の高価格販売によるブランド力アップ（令和5年度：子牛生産頭数4,000頭、肉牛出荷頭数5,000頭、和子牛平均価格全国3位以内）							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

令和2年10月に制定した「鳥取県産和牛の保護及び振興に関する条例に基づき、令和3年4月に策定した鳥取県和牛振興計画の実現に向けて事業を実施し、県産和牛の遺伝資源保護や県産和牛の産業振興を図る。

2 主な事業内容

（単位：千円）

部門	補助事業名	内容	実施主体	県補助率等（上限額）	予算額
生産	繁殖雌牛増頭加速化事業	和牛繁殖雌牛の飼養頭数の増頭のために行う雌牛購入に対し、購入費の一部を補助する。（外部導入及び自家保留）	J A	1/3 （市町村1/6）	19,648
	特定種畜肥育素牛保留対策事業	特定種畜を父または母の父とする肥育素牛を導入した場合、導入費の一部を補助する。	J A	定額80千円	12,000
	【拡充】増頭のための空き牛舎改修等支援事業	県内の空き牛舎を改修して増頭する場合の費用に対して補助する。 （拡充）既存牛舎の増改築を追加	J A	1/3 （市町村1/6） （上限1,500千円）	5,000
	【拡充】和子牛市場活性化事業	子牛市場活性化のため雌子牛全頭のゲノム育種価評価等の取組を支援する。 （拡充）子牛品評会の首席雌牛に対する褒賞金を追加	鳥取県和牛生産者連絡協議会	1/2	11,750
改良	県内ゲノム優良雌牛保留対策事業	県が別に定める基準値以上のゲノム育種価または期待育種価を有する雌子牛を県内保留あるいは導入した経費に対して補助する。	J A	定額120千円	18,400
		基準値以上のゲノム育種価または期待育種価を有する雌子牛の中でも特に優秀な雌子牛の県内保留を支援する。 自家保留：定額500千円 導入牛：800千円以内	鳥取県和牛生産者連絡協議会	1/2	
	優秀受精卵購入助成事業	県が定める血統の受精卵を購入し、年度内に移植した場合に補助を行う。	J A	1/2 （上限20千円/頭）	2,200
その他	鳥取県和牛振興会議	振興計画の内容確認や進捗管理を行う会議の旅費、報償費。	県	定額	586
合計					69,584

3 事業目標・取組状況・改善点

(1) 事業目標

鳥取県農業生産1千億円達成プラン及び鳥取県和牛振興計画に掲げる繁殖雌牛7,000頭、肥育出荷頭数5,000頭（令和5年）の目標達成により、鳥取県の和牛振興を図る。

(2) 取組状況・改善点

- 令和2年10月に鳥取県産和牛の保護及び振興に関する条例を制定、その条例に基づく和牛振興計画を令和3年4月に作成し、その計画に沿った事業を実施している。
- 繁殖雌牛頭数は、令和3年に当初目標の5,000頭を達成し、令和4年は5,186頭と順調に増加したが、牛を飼養するスペースが不足していることから、空き牛舎の改修に加えて牛舎の増改築に向かえるように事業を拡充する。
- 鳥取県は令和2年及び3年に和子牛市場の子牛平均取引価格が日本一となった。今後も和子牛市場の活性化を図るため、さらなる支援策を講じる。

令和5年度一般会計当初予算説明資料

6款 農林水産業費

2項 畜産業費

畜産試験場（電話：0858-55-1362）

4目 畜産試験場費

（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他 (財産収入等)	一般財源	
試験研究費	191,122	179,803	11,319			130,854	60,268	
トータルコスト	373,706千円（前年度 364,025千円）〔正職員：20.8人、会計年度任用職員：7.1人〕							
主な業務内容	牛の飼養管理技術、和牛の育種改良、鳥取和牛ブランド化等に係る試験研究							
工程表の政策内容	優秀な種雄牛の造成、「鳥取和牛オレイン55」発生率向上、和牛肉のうまみの指標化、和子牛の強化哺育手法の確立、和牛去勢肥育牛の短期肥育技術の確立、県産牛乳のおいしさ評価手法の確立、本県での栽培に適した粗飼料の選定、飼料分析に基づく飼料給与改善支援							
事業内容の説明 【財源内訳「その他」の内訳】財産収入：75,734、基金繰入金：15,006、受託事業収入：39,465、手数料：649								
1 事業の目的・概要								
鳥取和牛ブランド化に向けた和牛改良の促進、県産牛乳の高付加価値化のための技術開発等に係る試験研究に要する経費である。								
2 主な事業内容 (単位：千円)								
試験研究課題名				予算額	トータルコスト			
鳥取和牛ブランド向上試験				7,763	34,355			
高能力種雄牛産子の子牛育成技術の確立				3,022	20,340			
体外受精卵技術を活用した和牛増頭と育種改良技術の確立				2,369	15,624			
高能力受精卵増産委託事業				9,854	10,634			
優良遺伝子を活用した新鳥取和牛の創造				43,767	55,218			
鳥取和牛肉うまみ開発試験【別途再掲】				6,122	17,573			
和牛産肉能力検定試験				55,038	73,751			
牛の精液供給事業【別途再掲】				14,888	52,604			
粗飼料生産利用向上事業				25,323	44,941			
代替飼料の利用に関する研究				22,976	48,666			
(廃止) 県産牛乳のおいしさ評価試験				—	—			
合 計 10 課題				191,122	373,706			
3 事業目標・取組状況・改善点								
(1) 事業目標								
県畜産物のブランド化を図るため、市場競争力を高めるための優秀な種雄牛の造成、和牛肉、県産牛乳のうまみ開発を行うとともに、消費者の求める安全・安心で高品質な畜産物生産技術の開発を行う。								
(2) 取組状況・改善点								
優良遺伝子を活用した種雄牛造成、体外受精卵による和牛増頭、子牛育成技術の確立、粗飼料生産・給与技術など生産現場の課題に対応する試験研究、技術の向上が図られた。								